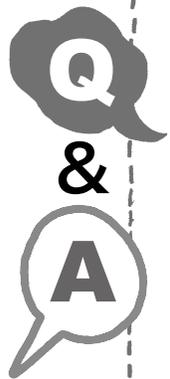


インタビュー指導



港区立赤坂中学校教諭 甲斐利恵子

インタビュー指導のさまざまな疑問について、本誌連載「教師力講座」でもおなじみの甲斐先生にお聞きしました。

Q1 インタビューの事前準備は、何をしたらよいのでしょうか。

A1 下調べをし、質問を吟味させましょう。

誰にインタビューするかによって、準備は変わります。下調べすることはもちろん必要ですが、身近な人にインタビューする場合は、効果的な下調べができないこともあるので、私は質問の吟味に時間をかけるようにしています。

よく知っている友達の場合

例えば、「友達の魅力を語る」というインタビューの場合、「その子がいちばん光っているときはいつだろう」「その子らしさは何だろう」など、その友達の魅力进行分析し、質問の切り口を考えます。部活・授業・体育祭・合唱コンクール・習い事……など、友達が生き生きと魅力的に見えた場面を思い出し、質問を考えさせるとよいでしょう。

あまりよく知らない友達の場合

新版教科書には一年一学期に「友達をみ

んなに紹介しよう」という教材が入りました。入学したての子どもたちは、まだお互いをよく知らないのです、「夢中になっっていることは何ですか」「マイブームは何ですか」などの、共通の質問を考えさせるのがよいと思います。その場合、「嫌いなもの」や「苦手なこと」を聞くのではなく、「好きなもの」や「気に入っていること」など、ポジティブな質問の方がよいでしょう。

外部の人の場合（職場訪問など）

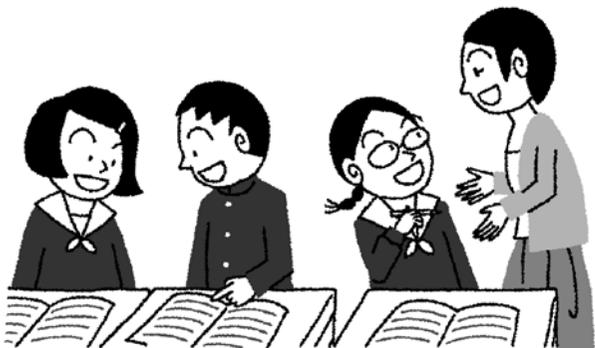
その人の職業について調べさせることはもちろん大事ですが、中学生なので下調べには限界があります。ですから、調べていく中で感じたことや考えたことをふまえて質問させるとよいでしょう。

例えば、お寿司屋さんにインタビューするときに、「仕込みはどういう順番で行うんですか」という質問をしても、そこから

Q2 質問を考えられない子どもには、どのように指導したらよいでしょう。

A2 教師がモデルを示したり、個々にアドバイスをしたりするなど、手厚い指導が必要です。

インタビューの事前準備には、教師の手厚いサポートが欠かせません。質問を考えられない子には、教師が質問のモデルを示



すとよいでしょう。具体例を見せ、「話がつながっていく質問」があることを意識させることも大事です。

例えば、「いつ、この仕事につこうと思ったんですか」という質問だと、「大学生のときです」と……と、一問一答になりがちです。基本情報としてそういう質問も必要なのですが、「仕事の中で、大きな失敗をしたことはありますか」という質問だったら、「〇〇という失敗をしました」と、「その失敗を繰り返さないために、どのような工夫をしていますか」と……と、話をつなげていくことができます。この質問をしたらどういう答えが返ってくるだろうか、という予想をしながら、「つながる質問」を考えさせるようにします。

また、できれば教師は、子どもたちがインタビューする相手を把握し、個々にアドバイスするのが理想です。それが難しい場合は、隣の席やグループで見せ合っている、「この質問はつながりにくいんじゃないか」と、子どもどうしでアドバイスをさせるのもいいかもしれません。

私は、子どもたちに「質問力」をつけさせるため、インタビュー指導とは別に、「スピーチ大会」「質問力」を考える」という単元を設定したことがあります。P15

は、なかなか話が広がりにくいかもしれません。ですから、下調べする中で「仕込みは大変そうだな」と思ったら、「仕込みは大変そうですが、その中でもいちばん神経を使うところはどこですか」と、子どもが感じたところから質問を考えさせるとよいと思います。

また、「この仕事をやっていて楽しいときはいつですか」「お客さんに言われてうれしい言葉は何ですか」「くじけそうになることはありませんか」など、仕事をしていて感じる喜びや苦労などは、どんな職業でも聞ける共通の質問です。そういう質問を考えさせることも大事だと思います。



イラスト：おのみさ

でご紹介していますので、参考にしてみてください。インタビュー指導の前に、このような単元を設定し、子どもの「質問力」を鍛えるのも一つの方法かもしれません。

Q3 インタビューをさせると、一問一答になってしまいます。

A3 相手の言葉を引用したり、自分との共通点を見つけて質問するようにアドバイスをしましょう。

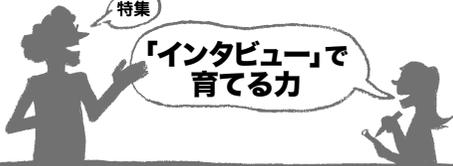
事前に「つながる質問」を立てておくことは大事ですが、とはいえ、実際の場になると一問一答になってしまうこともあるようです。

私は、「相手が言った言葉を引用して質問しなさい」と、子どもたちにアドバイスをしています。「〇〇と聞いていましたが、〇〇なんですか?」と聞くようにすると、一問一答にならず、話をつなげていくことができます。

また、自分との共通点を見つけて質問することも大事です。例えば、野球にまつた

特集

「インタビュー」で育てる力



Q4 インタビューを文章にまとめさせるとき、どんな指導をしたらよいでしょう。

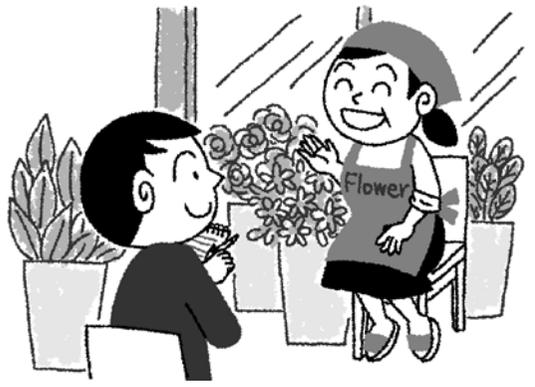
A4 事前に文章にまとめさせることを伝え、相手の表情やしぐさ、印象的な言葉に注意しながらインタビューするよう指導しましょう。

興味がない女子が、野球に夢中になっている男子にインタビューするとします。「野球なんて興味がない」という姿勢だと、必ず話は途切れますが、「野球に夢中になって時間を忘れることはありませんか。私は、本が好きでよく時間を忘れて読みふけってしまうのですが」と、自分との共通点を見つけて質問するようにアドバイスすると、話がふくらみます。たとえ野球に興味なくとも、相手の心の動きや周囲の状況などから、共通点を見つけることはできるので

以上二点に気をつけて質問するよう促すと、話を聞く姿勢も変わってきます。「ここをもっと詳しく聞こう」「このことなら聞ける」と、アンテナを張って聞くようになり、一問一答のインタビューになり、相手の話を豊かにするためのインタビューなんだという意識をもたせたいものです。

文章にまとめることを事前に伝え、相手の表情やしぐさなどを、見ておくように伝えます。「目を輝かせながら話した」、「ちよつとはにかみながら」といった表現が入ると、生き生きとした文章になります。また、私はインタビュー中の「光った言葉」を、カードに書かせるようにしています。相手の魅力を伝えるには、相手が発した印象的な言葉を取り出すとよいと考えているからです。

インタビューのメモから、相手が発した「光った言葉」をカードに書き出し、ナンバリングさせます。そして、カードを並べて「この言葉を中心にまとめよう」と、使う言葉を決めたり、言葉の順番を入れ替えたりして、文章の構成を考えさせるのです。また、インタビューの前に、モデルとなる文章を読ませておくといでしょう。教師が書いた文章でもいいですし、教科書の関連教材（「補助犬とともに」二年）でも



いいです。それを分析させて、どんな特徴があるか事前に考えさせるとよいと思います。普段子どもたちが書いている、自分の感想や考えを入れる文章とは違い、「相手の魅力を伝える」という文章であることを、きちんと示してあげることが大事です。

「質問力」を育てるために

インタビューには「質問力」が大事です。私は、その力を育てるため、「スピーチ大会」―「質問力」を考える―という単元を設定しました。子どもたちに「二〇一一年夏を語る」というテーマで短いスピーチをしてもらい、それについて、みんなで質問するというものです。



この場合、スピーチの中心はさして重要で

はありません。どんなにつまらないスピーチでも、聞き手の力で、豊かにおもしろくしていくというのが趣旨です。

例えば、「家族で北海道に行きました。とても楽しかったです」と発表した子がいたら、「北海道といえば、海の幸がおいしいですよ。何か食べましたか」とか、「広々としたイメージがありますが、実際に行ってみてどうでしたか」とか、質問を挙げさせます。一通り質問が出揃ったところで、教師が「〇〇さんの質問は、だから、いい質問だね」「〇〇さんの質問は、広がり、いい質問だね」など、それぞれの質問についてコメントをしないのがポイントです。子どもたちは質問を考えることに集中し、その質問がよかつたかどうかを教師がジャッジするというシンプルなお流れです。

単元のおわりには、子どもたちといっしょに、「どんな質問をしたらいいのかわかるか」と、「どんな質問をしたらいいのかわからないか」と、まとめてプリントにしました（下記参照）。この単元は、「いい質問って何だろう」と深く考えるきっかけになったようです。「日常生活」でも、今のは「いい質問だったかな」と考えるようになり、「いい質問だったかな」と書く子どももいました。

「いい質問」についてまとめたプリント（二部抜粋）

まとめ

どんな質問をしたらいいのかわからないのか。（体験談の場合）

- ▼話し手のいちばん伝えたいことにくれる。答えにくいことは聞かない。（答えを想定してみる）
- ▼漠然としたことは聞かない。
- ▼このことを聞くと話が深まりそうかどうかを聞く。
- ▼一問一答になりそうなのは聞かない。（一問一答にならないよう続けて聞く）
- ▼わからないことはまず聞く。
- ▼そのあとつなげて聞く。↓自分の知っていることにつなげて聞く。
- ▼話し手が話したことを聞かない。
- ▼話し手の言葉を引用して聞く。
- ▼自分との共通点を探しながら聞く。
- ▼自分の例を出して聞く。
- ▼具体的な答えを用意して聞く。
- ▼選択肢を用意して聞く。
- ▼コメント（感想・意見）+質問で聞く。
- ▼話がひとしきり盛り上がったあと、「ところで、どうですか」と聞く。

